

心理統計法

専門教育科目 / 2 単位 / TS 授業

担当教員 井藤 英俊（テキスト・スクーリング担当）、野中 勝治（スクーリング担当）

■使用テキスト 「やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる心理統計」
山田剛史・村井潤一郎（著）ミネルヴァ書房

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

心理統計法の講義では、心理・社会福祉の分野において活用することができる統計学の基礎的知識ならびに、計算機や PC を用いたデータの集計と分析の基本的な手法を学修する。

統計学を学ぶにあたって、数字が苦手なため、敬遠する人もいる。しかし、この科目では統計の基礎的知識を学修することを第 1 の目的とした。つぎに、計算機を用いた分析を行う。最終的には、今後、受講生の方が調査・研究で得られたデータを分析する際の手法を選択することができる知識を習得することが目標である。（単位認定試験の内容と形式は添削課題に準じたものになる。科目単位認定試験に必要な公式や表はすべて配布される。）

スクーリング出席申込みには、添削課題提出済みであることが条件となる。

到達目標

- 1) 日常生活で出合う統計が理解できる。
- 2) 簡単な統計分析が独力で行うことができる。
- 3) 心理・福祉分野でよく用いられる統計分析が理解できる。

評価方法

T 部分：科目単位認定試験により評価。

S 部分：出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）。

学習指導

1. 統計学とは 身長や性別、出身地などを数値に変換し、質的変数と量的変数を理解する
身長などの身近な数値から 4 つの尺度水準の違いを理解する
2. データの図表化 身長などの身近なデータを用いて、度数分布表とヒストグラムを作成する
3. 代表値 3 つの代表値について理解し、計算機を用いて身近なデータから代表値を計算する
4. 分散と標準偏差 分散と標準偏差について理解し、計算機を用いて身近なデータから分散と標準偏差の計算をする
5. 標準得点 標準得点について理解し、計算機を用いて身近なデータから z 得点と偏差値の計算をする
6. 2 変数の関係（相関） 身近なデータから散布図を作成し、計算機を用いて相関係数を求め、その関係を記述する
7. 2 変数の関係（連関） 簡単なアンケートを作成し、その結果をクロス表で集計し、 χ^2 検定を用いて、2 変数の関係を記述する